

目次

口 絵

序

凡 例

細 目 次

第一編 重工業

第一章 愛知県の重工業概況……………三

一 第一次大戦と愛知県重工業・電力業……………三

二 第一次大戦後の愛知県重工業……………一〇

三 満州事变以降の愛知県重工業……………一七

第二章 金属・機械器具工業……………二一

第一節 金属工業……………二一

一	第一次大戦期の特殊鋼生産の開始	二一
二	大同電気製鋼所の特殊鋼事業	二三
三	豊田自動織機製作所の製鋼事業	二九
第二節	鉄道車輛工業	三六
一	鉄道車輛企業の創立	三六
(1)	鉄道車輛企業設立経緯	三六
(2)	日本車輛製造の設立	四一
(3)	鉄道車輛製造所の設立	四五
二	明治中後期の鉄道車輛事業	六八
	日本車輛製造の事業経営	
三	第一次大戦以降の鉄道車輛事業	八三
(1)	日本車輛製造の事業展開	八三
(2)	技術と労働	八五
(3)	製品販売と代理店	八八
第三節	工作機械工業	九五
一	製麵機製造から工作機械製造へ	九五
	大隈鉄工所	
二	工作機械製造事業の経営	一〇三
	大隈鉄工所	

第四節	自動車工業	一一三
一	自動車業界の状況と産業政策	一一三
二	自動車製造事業への参入	一三三
第五節	航空機工業	一四〇
一	第一次大戦以降における航空機生産の開始	一四〇
(1)	三菱の参入	一四〇
(2)	愛知時計電機の参入と事業化	一五三
二	満州事变の勃発と航空機生産の拡大	一六八
(1)	三菱重工業名古屋航空機製作所	一六八
(2)	愛知時計電機	一七六
(3)	航空機部品工業への参入と拡大	一七九
第六節	軍工廠	一八七
(1)	日露戦争と熱田兵器製造所の設立	一八七
(2)	名古屋兵器製造所の設立	一九一
(3)	千種機器製造所の設立と航空機製造の開始	一九五

(4) 陸軍造兵廠名古屋工廠	一九九
第七節 その他の機械工業	二〇八
(1) 電気機械工業	二〇八
(2) 自転車工業	二二一
第三章 電力・ガス業	二二九
第一節 電力業	二二九
一 創業期から一九〇〇年代までの電力業	二二九
(1) 電力企業創業期の状況	二二九
(2) 水力発電の開始と福沢桃介	二三〇
二 第一次大戦期の電気事業	二三五
三 両大戦間期の電気事業（一九三六年まで）	二四四
(1) 卸売電力会社の登場と工業用電力需要の増大	二四四
(2) 名古屋電灯（東邦電力）による周辺電力会社の合併	二五四
(3) 東邦電力と東京電灯の「電力戦」	二六四
(4) 電力料金値下げ運動とそれへの対応	二七一

第二節 ガス業……………二七八

一 明治期のガス業 照明用が中心……………二七八

二 第一次大戦期以降のガス業 熱エネルギーとして……………二八一

第二編 戦時経済と工業

第一章 愛知県の戦時経済概況……………二九五

一 戦時工業動員の開始……………二九五

二 戦時経済動員行政……………二九八

三 戦時経済状況……………三二九

四 民需産業の企業整備……………三七二

(1) 民需産業整備の概観……………三七二

(2) 蚕種業の整備……………三八〇

(3) 莫大小製造業の整備……………三八一

(4) 織物業の整備……………三八六

(5) 染色業の整備……………三九二

(6)	製函業の整備	三九三
(7)	印刷業の整備	三九八
	第二章 繊維工業	四〇七
	第一節 繊維工業概況	四〇七
	一 織物業における企業合同と生産の実相	四〇七
	二 織物業における同業組合の統合	四一四
	三 紡績企業による統合	四一五
	第二節 製糸業	四二一
	一 製糸統制の進展	四二一
	二 企業整備の展開	四二四
	第三節 紡績業	四三四
	一 企業合同の開始	四三四
	二 軍需工場への転用	四四〇
	第四節 織物業	四五八
	一 尾西	四五八

(1)	尾西織物協議会の結成	四五八
(2)	企業整備の展開	四六一
二	知多	四七八
(1)	同業組合の組織替と生産統制	四七八
(2)	原糸の配給と生産の推移	四八七
三	東三河	四九二
(1)	軍需品生産の拡大	四九二
(2)	組合統制の展開	四九九
第三章	窯業	五〇九
第一節	産地の動向	五〇九
一	価格の公定と資材の配給	五〇九
二	軍需工業への転換と代用品の生産	五一七
三	企業整備の進展と技術の保存	五二三
第二節	企業への対応	五三三
一	日本特殊陶業の設立と発展	五三三

二	軍需生産の拡大と資材の確保	五四〇
三	空襲と工場	五五三
	第四章 食品工業	
	第一節 酒造業	
一	業界団体の動向	五六一
(1)	愛知県酒造組合聯合会	五六一
(2)	豊醸組	五六八
(3)	半田酒造組合	五七二
二	統制の実態 販売と生産	五八〇
(1)	統制	五八〇
(2)	販売	五九三
(3)	生産	五九八
三	雇用と労働	六〇三
第二節 加工食品工業		六〇七
一	醸造業	六〇七

(1)	ミリン	六〇七
(2)	酢	六一三
	二 トマトソース・ケチャップ・缶詰	六一五
	第五章 金属・機械器具工業	六二五
	第一節 金属工業	六二五
	一 豊田製鋼の設立	六二五
	二 大同製鋼の膨張	六四四
	第二節 繊維機械工業	六四六
	一 軍需工業への転換	六四六
	二 軍需企業の設立	六五三
	三 軍需生産の拡充と工場疎開	六六一
	第三節 鉄道車輛工業	六七三
	一 戦時下の事業経営	六七三
	二 戦時下の雇用と労働	六八二
	第四節 工作機械工業	六九一

一	兵器生産への進出	六九一
二	工作機械工業への転換と参入	七〇四
第五節	自動車工業	七二四
一	トヨタ自動車工業の設立	七二四
二	戦時下のトヨタ自動車工業	七四二
第六節	航空機工業	七六七
一	日中戦争期の航空機工業	七六七
(1)	三菱重工業名古屋航空機製作所	七六七
(2)	愛知時計電機	七七一
(3)	航空機部品工業	七七七
二	太平洋戦争期の航空機工業	七八〇
(1)	三菱重工業名古屋航空機製作所	七八〇
(2)	愛知航空機の設立と航空機事業の拡大	七九八
(3)	航空機部品工業	八〇四
第七節	軍工廠	八〇八
第八節	その他の機械工業	八三〇

(1)	電気機械工業	八三〇
(2)	光学機械工業	八三四
	第六章 電力・ガス業	八三九
	第一節 電力業	八三九
	一 第一次電力国家管理期の電気事業	八三九
	二 第二次電力国家管理期の電気事業	八四九
	第二節 ガス業	八六一
	解説	八七一
	あとがき	
	資料提供者及び協力者	
	愛知県史編さん関係者名簿	

細目次

第一編 重工業

第一章 愛知県の重工業概況

- | | |
|-----------------------------|----|
| 一 第一次大戦と愛知県重工業・電力業 | |
| 1 欧洲戦乱に因る名古屋市に於ける各種事業の盛衰(抄) | 3 |
| 一九一七年(大正六)六月三十日…………… | |
| 2 時局と愛知県工業状態(抄) | 8 |
| 一九一八年(大正七)一月二十五日…………… | |
| 二 第一次大戦後の愛知県重工業 | |
| 3 名古屋物産案内(抄) | 10 |
| 一九二六年(大正十五)十二月一日…………… | |
| 三 満州事变以降の愛知県重工業 | |
| 4 愛知県工場要覧(抄) | 17 |
| 一九三三年(昭和八)九月十五日…………… | |
| 5 木曾電気製鉄株式会社起業目録見書(抄) | 21 |
| 一九一七年(大正六)…………… | |
| 二 大同電気製鋼所の特殊鋼事業 | |
| 6 大同電気製鋼所経歴書(抄) | 23 |
| 一九三二年(昭和七)八月…………… | |
| 三 豊田自動織機製作所の製鋼事業 | |
| 7 製鉄事業認可申請書(抄) | 29 |
| 一九三四年(昭和九)三月三十日…………… | |
| 第二節 鉄道車輛工業 | |
| 一 鉄道車輛企業の創立 | |
| (1) 鉄道車輛企業設立経緯 | |
| 8 探聞書 | 36 |
| 一八九六年(明治二十九)二月六日…………… | |
| 9 (同一事業)二社設立発起事情) | 38 |
| 一八九六年(明治二十九)四月二十九日…………… | |
| (2) 日本車輛製造の設立 | |
| 10 日本車輛製造株式会社設立目録見書 | 41 |
| 一八九六年(明治二十九)…………… | |
| 11 日本車輛製造株式会社定款(抄) | 43 |
| 一八九六年(明治二十九)…………… | |
| (3) 鉄道車輛製造所の設立 | |
| 一 第一次大戦期の特殊鋼生産の開始 | |
| 第一節 金属工業 | |

12	株式会社鉄道車輛製造所創立之義二付願 一八九六年(明治二十九)一月二十八日	45	23	〔日本車輛製造株式会社〕要覽(抄) 一九二七年(昭和二)	83
13	株式会社鉄道車輛製造所目論見書 一八九六年(明治二十九)	47	(2) 技術と労働		
14	株式会社鉄道車輛製造所創立設計書(抄) 一八九六年(明治二十九)	50	24	小頭以下在職人員表(抄) 一九一三年(大正二)四月三日	85
15	株式会社鉄道車輛製造所定款(抄) 一八九六年(明治二十九)七月三日	59	25	〔鐵道院技師の技師長への任用〕 一九一六年(大正五)十月三日	86
16	〔株式会社鉄道車輛製造所〕第壹期事業報告書 一八九七年(明治三十)一月二十日	62	26	従業員人員表 一九三一年(昭和六)四月十四日	87
17	〔株式会社鉄道車輛製造所〕第二期事業報告 一八九七年(明治三十)七月三十日	65	(3) 製品販売と代理店		
	二 明治中後期の鉄道車輛事業 日本車輛製造の事業経営		27	日本車輛会社代理店引受二就テ 一九二六年(大正十五)五月七日	88
18	〔日本車輛製造株式会社〕第壹回報告(抄) 一八九七年(明治三十)一月	68	28	日本車輛会社製電気機関車ノ事(一) 一九二六年(大正十五)五月二十七日	89
19	自三十三年一月至同年六月半期間製作車輛其他製作代 調書・半製品調書(抄) 一九〇〇年(明治三十三)六月三十日	75	29	日本車輛会社製電気機関車ノ事(二) 一九二六年(大正十五)五月二十八日	90
20	〔日本車輛製造株式会社〕第十九回報告書(抄) 一九〇八年(明治四十一)十月	78	30	契約書 一九二六年(大正十五)八月十八日	91
21	〔工場職工請負制度及工賃交付手續変更ノ件〕稟議 明治四十年代	79	31	日本車輛製造株式会社代理店契約締結ノ件 一九二六年(大正十五)八月	93
22	〔鐵道固有化と汽車製造・日本車輛合併建議〕 一九一一年(明治四十四)四月	80	第三節 工作機械工業		
	三 第一次大戦以降の鉄道車輛事業		一 製麵機製造から工作機械製造へ 大隈鐵工所		
(1) 日本車輛製造の事業展開			32	〔大隈栄一の企業設立経緯とその経営〕(抄) 一九三九年(昭和十四)十月二十八日	95

33	(大隈栄一・製麵機関係特許) (抄)	
	一九〇七年(明治四十)	七月二十五日・
	一九〇九年(明治四十二)	五月二十二日
34	大隈式製麵機械案内(抄)	
	一九一五年(大正四)
35	(大隈栄一・工作機械関係特許) (抄)	
	一九一四年(大正三)	四月二十日・
	一九一五年(大正四)	六月二十三日
	102
	二 工作機械製造事業の経営	大隈鉄工所
	(第三期) 営業報告	
36	一九一九年(大正八)	九月三十日
	103
37	株式会社大隈鉄工所経歴書(抄)	
	一九二六年(大正十五)
38	第三十期営業報告書(抄)	
	一九三三年(昭和八)	三月三十一日
	110
	第四節 自動車工業	
	一 自動車業界の状況と産業政策	
39	中京のモーター業界を見る	
	一九三〇年(昭和五)	七月一日
	113
40	自動車工業発展振興策	
	一九三二年(昭和七)	十一月二十五日
	124
41	中京デトロイト化	
	一九三四年(昭和九)	八月一日
	129
42	名古屋中心に大飛躍時代へ	
	一九三五年(昭和十)	六月八日
	131
	二 自動車製造事業への参入	

43	三菱甲型自動車解説	
	一九二六年(大正十五)	一月一日
	133
44	キソコーチの産声(抄)	
	一九三五年(昭和十)頃
45	自動車製造事業申告	
	一九三六年(昭和十一)	七月三十一日
	136
46	自動車製造事業許可書	
	一九三六年(昭和十一)	九月十九日
	138
	第五節 航空機工業	
	一 第一次大戦以降における航空機生産の開始	
	(1) 三菱の参入	
47	(三菱航空機株式会社) 名古屋製作所史(抄)	
	一九三〇年(昭和五)五月
48	(三菱内燃機株式会社) 第拾壹期報告書(抄)	
	一九二五年(大正十四)	十一月三十日
	140
49	(三菱内燃機株式会社) 第拾四期報告書(抄)	
	一九二七年(昭和二)	五月三十一日
	148
50	(三菱航空機株式会社) 第拾六期報告書(抄)	
	一九二八年(昭和三)	五月三十一日
	149
	(2) 愛知時計電機の参入と事業化	
51	愛知時計電機株式会社調書	
	一九一九年(大正八)三月
52	創立二十五季記念誌(抄)	
	一九三三年(大正十二)四月
53	(愛知時計電機株式会社) 第拾六期営業報告書(抄)	
	一九二六年(大正十五)六月
	151
	153
	158
	164

	愛知時計電機株式会社一覽	166
	二 満州事変の勃発と航空機生産の拡大	
	(1) 三菱重工業名古屋航空機製作所	
54	当所沿革年表(抄)	168
	一九四〇年(昭和十五)四月	
55	工場現況報告	171
	一九三五年(昭和十)十月一日	
56	(2) 愛知時計電機	
	(愛知時計電機株式会社)経歴書(抄)	
57	一九三六年(昭和十一)七月一日	176
	(3) 航空機部品工業への参入と拡大	
58	(株式会社岡本自転車自動車製作所)海軍購買名簿登録願(抄)	179
	一九三五年(昭和十)九月二十一日	
	第六節 軍工廠	
	(1) 日露戦争と熱田兵器製造所の設立	
59	(熱田兵器製造所の設立)(抄)	187
	一九〇五年(明治三十八)頃	
60	(熱田兵器製造所の現況)(抄)	189
	一九〇五年(明治三十八)五月十七日	
	(2) 名古屋兵器製造所の設立	
61	欧洲戦争ノ経験ニ鑑ミ兵器行政上施設スヘキ事項(抄)	191
	一九一五年(大正四)頃	
62	兵器工廠設置決定	194
	一九一六年(大正五)三月	
63	(名古屋製造所の設置)(抄)	195
	一九二〇年(大正九)十一月	
	(3) 千種機器製造所の設立と航空機製造の開始	
64	軍用飛行機や自動車が名古屋で出来る	195
	一九一八年(大正七)九月一日	
65	名古屋通信	198
	一九一九年(大正八)四月一日	
	(4) 陸軍造兵廠名古屋工廠	
66	陸軍造兵廠服務規程原案(抄)	199
	一九二三年(大正十二)	
67	(名古屋工廠熱田兵器製造所飛行機工場への模様替)	200
	一九二六年(大正十五)九月十六日	
68	名古屋工廠現況(抄)	201
	一九二八年(昭和三)三月十四日	
69	昭和十年度名古屋工廠随時検閲所見(抄)	204
	一九三五年(昭和十)七月二十日	
	第七節 その他の機械工業	
	(1) 電気機械工業	
70	(三菱電機株式会社)第廿期営業報告書(抄)	208
	一九二一年(大正十)四月三十日	

71 三菱電機株式会社名古屋製作所梗概
一九二四年(大正十三)頃……………210

(2) 自転車工業

72 〔株式会社岡本自転車自動車製作所〕沿革及現況(抄)
一九二九年(昭和四)一月……………211

73 愛知県下自転車製造業概況(抄)
一九三三年(昭和八)五月……………216

第三章 電力・ガス業

第一節 電力業

一 創業期から一九〇〇年代までの電力業

(1) 電力企業創業期の状況

74 〔名古屋電灯株式会社〕第一回實際報告
一九〇〇年(明治二十三)……………219

75 〔豊橋電灯株式会社〕目録見書
一九九三年(明治二十六)九月四日……………222

76 〔愛知電灯株式会社〕目録見書
一九九四年(明治二十七)……………224

77 愛電と電灯点火
一九二二年(明治四十五)二月四日……………227

78 愛知電気鉄道株式会社電灯規則
一九二二年(明治四十五)頃……………227

(2) 水力発電の開始と福沢桃介

79 名古屋電力株式会社起業計画書
一九〇六年(明治三十九)頃……………230

80 名古屋電灯株式会社ト名古屋電力株式会社合併承認ノ件
一九一〇年(明治四十三)九月一日……………232

81 〔定期株主総会における福沢桃介あいさつ文〕
一九一三年(大正二)十二月二十日……………233

82 名古屋電灯の大阪送電計画
一九一六年(大正五)三月……………234

二 第一次大戦期の電気事業

83 県下電気事業〔大正期名古屋周辺の電力業者〕
一九一九年(大正八)十月二十五日……………235

84 〔知多電気株式会社〕第拾八回營業報告書
一九一八年(大正七)……………236

85 〔岡崎電灯株式会社〕第貳拾貳回事業報告書(抄)
一九一八年(大正七)……………240

三 両大戦間期の電気事業(一九三六年まで)

(1) 卸売電力会社の登場と工業用電力需要の増大

86 〔名古屋電灯株式会社より大同電力株式会社へ譲渡した水利使用権等について〕
一九二一年(大正十)頃……………244

87 〔関西電気株式会社と大同電気株式会社との優先電力需給契約の件〕
一九二二年(大正十一)三月……………247

88 〔尾三電力株式会社〕設立趣意書・計画大要
一九二二年(大正十)頃……………248

89	〔東邦電力株式会社知多出張所〕 營業施設概要報告 自大正十一年十一月至大正十三年十月（抄） 一九二四年（大正十三）頃……………	251
90	東邦電力株式会社全体及都計名古屋市内架空配電線路 電灯電力需用家取付KW数（抄） 一九三三年（昭和八）……………	252
91	(2) 名古屋電灯（東邦電力）による周辺電力会社の合併 〔名古屋電灯株式会社との合併の沿革〕 一九二一年（大正十）頃……………	254
92	〔岐阜電気株式会社との合併の件〕 承認願 一九二〇年（大正九）……………	254
93	〔豊橋電気株式会社との合併承認告知の件〕 一九二一年（大正十）二月……………	258
94	〔東邦電力株式会社大正拾叁年下半年營業報告書抄〕 一九二二年（大正十一）十二月……………	259
95	(3) 東邦電力と東京電灯の「電力戦」 東京電力株式会社の実態 一九二七年（昭和二）四月二十八日……………	264
96	東京電灯が名古屋進出に対する問答 一九二六年（大正十五）八月……………	267
97	(4) 電力料金値下げ運動とそれへの対応 〔東邦電力株式会社松永代表取締役名回答書〕 一九二二年（大正十一）十二月九日……………	271
98	〔電灯電力値下問題に関し東邦電力株式会社に照会の件〕 一九二八年（昭和三）十一月二十六日……………	276

99	電灯料金第二次値下問題二関スル督促ノ件 一九二八年（昭和三）十二月十二日……………	276
100	第二章 ガス業 一 明治期のガス業 照明用が中心 〔名古屋瓦斯株式会社〕 第一回營業報告書（抄） 一九〇七年（明治四十）……………	278
101	〔名古屋瓦斯株式会社〕 第二回營業報告書（抄） 一九〇七年（明治四十）……………	280
102	二 第一次大戦期以降のガス業 熱エネルギーとして 〔名古屋瓦斯株式会社〕 第拾八回營業報告書 一九二〇年（大正九）……………	281
103	本邦瓦斯事業大勢一覽（抄） 一九三四年（昭和九）七月二十日……………	286
104	第二章 戦時經濟と工業 第一章 愛知県の戦時經濟概況 一 戦時工業動員の開始 支那事变陸軍軍需品工場事業場利用配当名簿ノ件抄） 一九三九年（昭和十四）九月十六日……………	295
	二 戦時經濟動員行政	

117	愛知県下ノ經濟事情(一)	一九四四年(昭和十九)四月五日	340
116	愛知県下に於ける各般の經濟事情(二)	一九四四年(昭和十九)三月十九日	337
115	愛知県下に於ける各般の經濟事情(一)	一九四四年(昭和十九)三月十八日	330
114	名古屋市中に於ける昭和十八年中の会社新社設状況	一九四四年(昭和十九)二月二十四日	329
113	東海地方行政協議會議事經過に關する件	一九四四年(昭和十九)三月二十五日	327
112	東海地区機帆船用燃料其他地方行政協議會附議事項申報二關スル件(抄)	一九四四年(昭和十九)一月二十六日	326
111	第三回東海地方行政協議會議事經過報告二關スル件	一九四四年(昭和十九)一月二十六日	324
110	(東海地方行政協議會開催狀況)	一九四三年(昭和十八)末頃	324
109	第一回東海地方行政協議會開催概況	一九四三年(昭和十八)	321
108	愛知県生産増強常任委員會開催狀況二關スル件	一九四三年(昭和十八)八月七日	312
107	愛知県生産増強委員會開催狀況二關スル件	一九四三年(昭和十八)六月十八日	307
106	愛知県生産増強各庁連絡協議會結果概要報告二關スル件	一九四三年(昭和十八)五月二十七日	305
105	愛知県協力工業協議會開催二關スル件(抄)	一九四三年(昭和十八)五月三日	298

126	愛知県莫大小編成業者營業用資産引受並二処分・莫大小裁縫業者營業用資産引受並二処分	一九四五年(昭和二十)五月九日	381
125	愛知県蚕種製造業者營業用資産引受並二処分(抄)	一九四五年(昭和二十)四月二十日	380
124	(國民更生金庫名古屋支所による整備企業の資産引受並びに処分總括表)	一九四六年(昭和二十)頃	378
123	國民更生金庫名古屋支所業務概況 昭和貳拾年參月末日現在	一九四五年(昭和二十)三月	372
122	東海地方に於ける航空工業協力工場概況(抄)	一九四四年(昭和十九)十一月十八日	361
121	愛知県石炭船の航海を督励	一九四四年(昭和十九)六月十五日	360
120	名古屋地方ニ於ケル小運送	一九四四年(昭和十九)五月三十日	358
119	愛知県下ノ經濟事情(二)	一九四四年(昭和十九)五月二日	355
118	(決戦非常措置要綱に対する愛知県の反響)(抄)	一九四四年(昭和十九)四月十一日	348

三 戦時經濟狀況

(3) 莫大小製造業の整備

(2) 蚕種業の整備

四 民需産業の企業整備

(1) 民需産業整備の概観

	(4)	織物業の整備	
127		愛知県織物製造業者営業用資産引受並ニ処分	
		一九四四年(昭和十九)三月……………	386
128		〔織物転廃操業工場表〕	
		一九四四年(昭和十九)二月一日……………	389
	(5)	染色業の整備	
129		染色整理業者緊急資金貸出	
		一九四二年(昭和十七)十月二日……………	392
	(6)	製函業の整備	
130		名古屋製函工業企業整備要綱	
		一九四五年(昭和二十)五月七日……………	393
	(7)	印刷業の整備	
131		愛知県印刷業者営業用資産引受並ニ処分	
		一九四四年(昭和十九)十二月二日……………	399

第二章 繊維工業

第一節 繊維工業概況

	一	織物業における企業合同と生産の実相	
132		〔織物業における企業合同〕(抄)	
		一九四一年(昭和十六)六月二十五日……………	407
133		〔愛知県下織物業者態態〕(抄)	
		一九四二年(昭和十七)四月十日……………	411

	二	織物業における同業組合の統合	
134		愛知織物工組結成	
		一九四一年(昭和十六)十二月十四日……………	414
	三	紡績企業による統合	
135		〔紡績企業による統合〕(抄)	
		一九四二年(昭和十七)十二月二十五日……………	415
	第二節	製糸業	
	一	製糸統制の進展	
136		〔豊橋市の蚕糸額〕	
		一九三八年(昭和十三)三月二日……………	421
137		〔県内蚕糸業の金融状況〕(抄)	
		一九四一年(昭和十六)五月十日……………	423
	二	企業整備の展開	
138		愛知県ノ製糸業者ノ取扱ニ関スル件(抄)	
		一九四二年(昭和十七)十二月二十三日……………	424
139		愛知県生糸製造業者営業用資産引受及貸付並ニ処分	
		(第一回)	
		一九四三年(昭和十八)四月十九日……………	425
140		評価決定ニ関スル件(抄)	
		一九四四年(昭和十九)四月四日……………	429
141		国民更生金庫申込者一覽表・第三回営業用資産評価表	
		一九四四年(昭和十九)四月……………	429
142		〔保証責任三州玉糸生糸共同施設組合組合長清水寿一 ト廃業者トノ締結〕	
		一九四四年(昭和十九)十月二日……………	431

第三節 紡績業

一 企業合同の開始

143	(日清紡績株式会社) 第參百七拾參回重役会(抄)	434
	一九三八年(昭和十三) 四月十一日	
144	十三プロック編成 紡績合同態勢成る	434
	一九四〇年(昭和十五) 十二月七日	
145	中央紡績共同組合 愈よ新会社設立	436
	一九四一年(昭和十六) 六月十七日	
146	(トヨタ自動車工業・中央紡績) 合併契約書	437
	一九四三年(昭和十八) 六月二十一日	
147	二 軍需工場への転用	
	(中央紡績刈谷南工場) 工場転用申請書	440
	一九四三年(昭和十八) 九月八日	
148	(興亜紡績株式会社) 工場転用に関する資料(抄)	441
	一九四三年(昭和十八) 頃	
149	(興亜紡績・中島飛行機の株式会社) 所有・経営陣に関する覚書(抄)	445
	一九四三年(昭和十八) 頃	
150	(興亜紡績・中島飛行機) 株式買受要項(抄)	447
	一九四七年(昭和二十二) 一月	
151	(熱田工場に関する) 契約書(抄)	449
	一九四三年(昭和十八) 頃	
152	(富士産業宛興亜紡績書簡) 貴社特殊株式御処分に關する返事の件	450
	一九四五年(昭和二十) 十二月八日	
153	(株式会社近藤紡績所) 目的変更認可申請書「坂井鉄工所買収に關聯して」	452
	一九四四年(昭和十九) 七月	

154 (日清紡績名古屋工場売却、同美合・針崎西工場閉鎖) 決議事項(抄)

一九四三年(昭和十八) 一月二十六日

155 (日清紡績株式会社) 戸崎工場転換ノ件

一九四四年(昭和十九) 二月二十八日

156 (内外綿安城工場の転用(日清紡績株式会社))

一九四四年(昭和十九) 四月

第四節 織物業

一 尾西

(1) 尾西織物協議会の結成

157 尾西織物協議会会則(抄)

一九四〇年(昭和十五) 二月五日

158 一宮市、津島町地方近況

一九四〇年(昭和十五) 十二月十四日

(2) 企業整備の展開

159 尾西毛織工業組合同定款案(抄)

一九四一年(昭和十六) 六月

160 毛織機業再編成の課題(抄)

一九四二年(昭和十七) 四月十日

161 従業員地区別集計表

一九四二年(昭和十七) 十一月二十五日

162 毛織物工業組關係資産引受二關スル件

一九四四年(昭和十九) 二月二十二日

163 (愛知県毛織物工業統制組合発足)

一九四四年(昭和十九) 七月十九日

二 知多

(1) 同業組合の組織替と生産統制

164 [知多小巾綿布工業組合]昭和十二年度事業報告書(抄)
一九三八年(昭和十三).....478

165 [知多綿布工業組合]昭和十四年度事業報告書(抄)
一九四〇年(昭和十五)五月二十七日.....480

166 組合員名簿 昭和十六年一月一日現在(抄)
一九四一年(昭和十六)三月四日.....481

(2) 原系の配給と生産の推移

167 自十月至一月四ヶ月分綿糸配給ニ依ル軍需晒割当表
一九三八年(昭和十三)一月頃.....487

168 軍需品割当三関スル件
一九三八年(昭和十三)四月二十二日.....487

169 [陸軍ヨリ支那系割当ノ内示]
一九三八年(昭和十三)八月二十二日.....488

170 [知多小巾綿布工業組合]手拭生地用改良木綿ニ対スル経糸用混紡糸ノ配給
一九三八年(昭和十三)十月二十五日.....489

171 特免晒共同販売二関スル交渉経過報告
一九三八年(昭和十三)十月三十日.....490

三 東三河

(1) 軍需品生産の拡大

172 綿織物委託製織承認申請書
一九三八年(昭和十三)八月二十日.....492

173 生産能力調査表提出二関スル件(抄)
一九四〇年(昭和十五)十二月十四日.....493

三河織物工業組合軍需部会則

174 一九四〇年(昭和十五)頃.....496

175 軍需品引受二関スル誓約書
一九四〇年(昭和十五)頃.....498

(2) 組合統制の展開

176 [三河織物工業組合の解散決議(抄)]
一九四一年(昭和十六).....499

177 [三河織物工業組合]解散決議取消ノ件
一九四二年(昭和十七)三月二十七日.....500

178 [三河織物工業組合定款変更(抄)]
一九四二年(昭和十七)三月三十日.....501

179 [三河織物工業組合の解散(抄)]
一九四四年(昭和十九)五月 七月.....501

180 [三河織物工業株式会社事業開始許可申請書]
一九四四年(昭和十九)七月.....507

第三章 窯業

第一節 産地の動向

一 価格の公定と資材の配給

181 日陶聯が原料配給(抄)
一九三七年(昭和十二)十二月一日.....509

182 常滑陶器十四品種ニ愛知県公定価格設定方申請
一九四〇年(昭和十五)八月十日.....511

183 愛知県陶磁器統制聯盟に就て(抄)
一九四一年(昭和十六)八月十日.....512

二 軍需工業への転換と代用品の生産

184 戦時工業転換に国庫補助
一九三八年(昭和十三)六月一日……………517

185 軍需品輸出品代用品見本製作費補助
一九三八年(昭和十三)十二月十日……………519

186 代用品普及二関スル事業
一九四一年(昭和十六)五月二十五日……………522

三 企業整備の進展と技術の保存

187 陶磁器ノ技術保存二関スル件
一九四二年(昭和十七)六月三日……………523

188 瀬戸陶磁器工業組合整備状況調査書・企業整備二件ノ
転廃業者二対スル共助金算定方法
一九四三年(昭和十八)二月八日……………526

189 愛知県陶磁器製造業者営業用資産引受及貸付並ニ二部
処分伺
一九四三年(昭和十八)六月二十三日……………530

第二節 企業の対応

一 日本特殊陶業の設立と発展

190 日本特殊窯業株式会社設立案
一九三六年(昭和十一)五月十一日……………533

191 日本特殊陶業株式会社定款(抄)
一九三六年(昭和十一)……………536

192 日特操業開始ノ辞
一九三七年(昭和十二)四月一日……………537

二 軍需生産の拡大と資材の確保

193 幹部会報告第十七回
一九三九年(昭和十四)十月二十三日……………540

194 商工大臣ニ対スル質疑要項
一九四〇年(昭和十五)五月十五日……………541

195 昭和十九年航空兵器並ニ材料生産二関スル施策提出ノ
件
一九四三年(昭和十八)十一月三十日……………542

196 電波兵器用「短波碍子」ノ増産対策二関スル意見書
一九四四年(昭和十九)二月……………549

三 空襲と工場

197 三月十二日空襲被害関係第二報
一九四五年(昭和二十)三月十六日……………553

198 (工場) 防空計画(抄)
一九四五年(昭和二十)四月……………555

第四章 食品工業

第一節 酒造業

一 業界団体の動向

(1) 愛知県酒造組合聯合会

199 愛知県酒造組合聯合会定款
一九四三年(昭和十八)六月一日……………561

200 愛知県酒造組合聯合会統制規程
一九四三年(昭和十八)六月一日……………565

(2) 豊醸組

201	昭和十四年度豊醸組業務成績(抄)	568
	一九四〇年(昭和十五)十月	
202	昭和十五年度豊醸組経費収入支出予算(清算)	569
	一九四一年(昭和十六)	
	(3) 半田酒造組合	
203	半田酒造組合定款(抄)・統制規程	572
	一九四三年(昭和十八)六月一日	
204	昭和十七年度半田酒造組業務成績(抄)	575
	一九四三年(昭和十八)九月三十日	
205	〔昭和十八年度〕経費収入支出決算並事業報告書提出ノ件(抄)	577
	一九四五年(昭和二十)十月二十日	
206	昭和十九年度半田酒造組事業報告(抄)	578
	一九四五年(昭和二十)九月三十日	
	二 統制の実態 販売と生産	
	(1) 統制	
207	知多酒類販売統制会々則	580
	一九三七年(昭和十二)七月	
208	酒類配給懇談会協議事項	585
	一九四〇年(昭和十五)四月三十日	
209	酒造半減善後措置方法(内定案)(抄)	587
	一九四〇年(昭和十五)	
210	配給系統	588
	一九四一年(昭和十六)二月十七日	
211	〔昭和十九年一月企業整備共助金関係書類〕(抄)	591
	一九四四年(昭和十九)三月十五日	

212	(2) 販売	593
	〔清酒販売価格二関スル件〕	
	一九四〇年(昭和十五)一月九日	
213	新公定価格ノ取扱方二関スル件(抄)	595
	一九四〇年(昭和十五)四月八日	
214	酒類販売価格改正ノ件(抄)	596
	一九四一年(昭和十六)十二月一日	
	(3) 生産	
215	昭和十一酒造年度醸造注意事項(抄)	598
	一九三六年(昭和十一)十二月	
216	豊醸組酒造関係諸物価騰貴指数調	601
	一九三九年(昭和十四)四月	
	三 雇用と労働	
217	豊醸組第二部落産業報国会結成顛末書	603
	一九四〇年(昭和十五)九月	
218	労務者二関スル調回答	605
	一九四二年(昭和十七)二月	
	第二節 加工食品工業	
	一 醸造業	
	(1) ミリン	
219	味淋販売高内訳表(抄)	607
	一九四三年(昭和十八)六月	
	(2) 酢	

220 食酢配給割当書
一九四三年(昭和十八)……………613

二 トマトソース・ケチャップ・缶詰

221 「愛知トマト製造株式会社」従業員ノ増減並賃金其ノ他調(抄)
一九三八年(昭和十三)七月頃……………615

222 「愛知トマト製造株式会社」労働状況調査票
一九四一年(昭和十六)十月二十六日……………617

223 「愛知トマト製造株式会社」工場設備、労働力等調査
一九四三年(昭和十八)四月八日……………618

224 愛知缶詰興業株式会社第卅期営業報告書
一九四三年(昭和十八)十一月二十八日……………619

225 缶詰企業整備関係事項調査ノ件
一九四三年(昭和十八)十二月十七日……………620

226 「愛知缶詰興業株式会社」取締役会決議録
一九四四年(昭和十九)四月六日……………622

227 「愛知缶詰興業株式会社」から帝国銀行への借入金依頼書(抄)
一九四四年(昭和十九)八月……………623

第五章 金属・機械器具工業

第一節 金属工業

一 豊田製鋼の設立

228 「製鉄事業」譲渡契約書
一九四〇年(昭和十五)一月十日……………625

229 豊田製鋼株式会社定款(抄)
一九四〇年(昭和十五)……………626

230 第卅一回報告(抄)
一九四〇年(昭和十五)十月二十八日……………628

231 日本の製鋼工業の現状と豊田製鋼株式会社設立の意義(抄)
一九四〇年(昭和十五)頃……………630

二 大同製鋼の膨張

232 「生産目標現地指導に関する資料」(抄)
一九四四年(昭和十九)五月……………644

233 協力工場定員及現在員
一九四五年(昭和二十)二月……………644

234 生産出荷目標指示一覽
一九四五年(昭和二十)……………645

第二節 繊維機械工業

一 軍需工業への転換

235 「秘密保持」誓約書
一九三七年(昭和十二)一月二十五日……………646

236 工作機械製造事業許可申請(高級ミリング月産20台以上)申請書
一九三八年(昭和十三)六月二十九日……………647

237 豊田式織機株式会社経歴書(陸軍)(抄)
一九四〇年(昭和十五)六月……………649

238 豊田式織機株式会社経歴書(海軍)(抄)
一九四〇年(昭和十五)八月……………652

二 軍需企業の設立

239	下請工場承認願	一九三七年(昭和十二)	十一月十六日	653
240	資本金増加及事業設備拡張証明願	一九三八年(昭和十三)	一月	655
241	重役会事業報告案(抄)	一九三九年(昭和十四)	一月二十八日	658
三 軍需生産の拡充と工場疎開				
242	航空機関係生産力拡充計画実施二関スル件	一九四二年(昭和十七)	十二月九日	661
243	学校工場ノ現況概要	一九四四年(昭和十九)	十一月九日	664
244	昭和二十年度上半期射爆兵器生産実行計画書提出ノ件	一九四五年(昭和二十)	一月二十六日	667
245	工場疎開計画書(抄)	一九四五年(昭和二十)	四月	669
第三節 鉄道車輛工業				
一 戦時下の事業経営				
246	重要機械製造事業許可申請書(抄)	一九四二年(昭和十七)	五月十五日	673
247	鉄道省管理工場トナリタル件	一九四三年(昭和十八)	九月二日	678
248	(戦時下日本車輛製造事業経営)報告書(抄)	一九四五年(昭和二十)	九月八日	679
二 戦時下の雇用と労働				

249	工員従業規則(抄)	一九四三年(昭和十八)		682
250	職員応召手当給与内規	一九四三年(昭和十八)	十一月二十九日	689
251	女子使用標準設定ト会社職員ノ現状比率(抄)	一九四四年(昭和十九)	八月十二日	690
第四節 工作機械工業				
一 兵器生産への進出				
252	大隈鉄工所の現況と将来(抄)	一九三八年(昭和十三)	九月	691
253	(旭兵器製作所の設立)(抄)	一九四一年(昭和十六)	十月三十日	695
254	二十年度上半期内示二関スル件(抄)	一九四五年(昭和二十)	一月十一日	697
255	示達事項二対スル答申	一九四五年(昭和二十)	三月五日	701
256	地下工場建設二関スル件	一九四五年(昭和二十)	三月二十日	703
二 工作機械工業への転換と参入				
257	豊田工機株式会社定款(抄)	一九四一年(昭和十六)	二月六日	704
258	工作機械製造事業許可申請書(抄)	一九四二年(昭和十七)	一月二十八日	707
259	資本増加認可申請書	一九四二年(昭和十七)	十月二十三日	712
260	第三回陸軍工作機械促進会議報告書(抄)	一九四二年(昭和十七)	十一月六日	718

	261	当社の生産能率昂揚策 一九四三年（昭和十八）五月十日……………	722
		第五節 自動車工業	
		一 トヨタ自動車工業の設立	
	262	豊田自動車製造株式会社設立趣意書（抄） 一九三七年（昭和十二）……………	724
	263	譲渡契約書 一九三七年（昭和十二）八月二十七日……………	740
		二 戦時下のトヨタ自動車工業	
	264	〔トヨタ自動車工業株式会社〕第壹回第貳回報告 一九三八年（昭和十三）四月二十五日……………	742
	265	拳母工場の完成に際して 一九三八年（昭和十三）十二月一日……………	746
	266	「軍事上ノ見地」ヨリ現用国産大衆車二関スル意見抄） 一九三九年（昭和十四）一月……………	747
	267	通達録 第六号 一九三九年（昭和十四）五月三十日……………	750
	268	外註部品内製切替命令 一九四〇年（昭和十五）二月二十日……………	751
	269	国産自動車は完全なものが出来るか（抄） 一九四〇年（昭和十五）五月一日……………	752
	270	試作研究ト製作準備命令 一九四〇年（昭和十五）九月十三日……………	757
	271	トヨタ部分品とシボレー及フォード部分品の適合番号 対照表 一九四二年（昭和十七）五月五日……………	760

	272	〔株式会社豊田自動織機製作所における自動車部品生産と下請企業の現状〕（抄） 一九四二年（昭和十七）……………	761
	273	試作命令（航空機） 一九四三年（昭和十八）一月二十六日……………	765
	274	〔トヨタ自動車工業株式会社〕第拾四回報告（抄） 一九四四年（昭和十九）四月二十六日……………	765
		第六節 航空機工業	
		一 日中戦争期の航空機工業	
	275	（1）三菱重工業名古屋航空機製作所 工場現況報告（抄） 一九四〇年（昭和十五）四月……………	767
	276	工場現況調査報告書（抄） 一九四一年（昭和十六）……………	771
	277	（2）愛知時計電機 昭和十三年四月七日（第二十九回）臨時資金審査委員 会議案 一九三八年（昭和十三）四月七日……………	772
	278	〔中京主力会社紹介〕愛知時計電機株式会社（抄） 一九四一年（昭和十六）十月二十五日……………	774
	279	（3）航空機部品工業 〔中京主力会社紹介〕岡本工業株式会社（抄） 一九四二年（昭和十六）十月二十五日……………	777
		二 太平洋戦争期の航空機工業	

280	(1) 三菱重工業名古屋航空機製作所 全力發揮二開スル実行計画並昭和十六、十七年度作業 計画(抄)	780
	一九四一年(昭和十六)七月	
281	陸軍機体昭和十九年度特別増産計画(抄)	785
	一九四三年(昭和十八)九月六日	
282	第二工作部計画方針(第八号)(抄)	794
	一九四四年(昭和十九)	
283	(2) 愛知航空機の設立と航空機事業の拡大 期營業報告書(抄)	798
	一九四二年(昭和十七)三月二十四日	
284	機体部会議	800
	一九四二年(昭和十七)三月二十四日	
285	〔愛知時計電機株式会社〕昭和十九年下半年第九拾参 期決算調書(抄)	801
	一九四四年(昭和十九)	
286	(3) 航空機部品工業 陸軍軍需工業年鑑(岡本工業兵器工場ほか)(抄)	804
	一九四四年(昭和十九)二月	
287	第七節 軍工廠 陸軍造兵廠名古屋飛行機工場移転要領	808
	一九三八年(昭和十三)十二月五日	
288	陸軍造兵廠臨時製造所設置二開スル件中改正ノ件達 (抄)	809
	一九三九年(昭和十四)六月	

289	陸軍造兵廠軍需品整備標準表(抄)	811
	一九三九年(昭和十四)六月二十日	
290	主要軍需品製造施設一覽表(民の部)(抄)	817
	一九四五年(昭和二十)八月十五日	
291	主要軍需品製造施設一覽表(官の部)(抄)	820
	一九四五年(昭和二十)八月十五日	
292	造兵廠現況説明二開スル資料	822
	一九四五年(昭和二十)八月二十九日	
293	造兵廠別兵器類別年次別生産額	827
	一九四五年(昭和二十)八月三十一日	
294	昭和二十年度作業計画書	827
	一九四五年(昭和二十)	
	第八節 その他の機械工業	
	(1) 電気機械工業	
295	〔三菱電機株式会社〕重要機械製造事業査定申告書(抄)	830
	一九四二年(昭和十七)四月一日	
296	會員業態要覽(三菱電機株式会社)(抄)	832
	一九四四年(昭和十九)十一月	
297	(2) 光学機械工業 〔エールモ科学工業株式会社〕会社設立認可申請書(抄)	834
	一九四四年(昭和十九)九月八日	
	第六章 電力・ガス業	
	第一節 電力業	

	一	第一次電力国家管理期の電気事業	
	298	〔東邦電力株式会社〕第三十六期営業報告書（抄）	839
		一九四〇年（昭和十五）	
	299	中部地方に於ける電力制限問題の経過並に影響（抄）	845
		一九四〇年（昭和十五）二月十九日	
		二 第二次電力国家管理期の電気事業	
	300	一般電力需給契約書	849
		一九四二年（昭和十七）	
	301	〔中部配電株式会社〕設立趣意書・事業目論見書・収支予算書	
		一九四二年（昭和十七）四月	
	302	日本発送電株式会社第八回報告書（抄）	853
		一九四三年（昭和十八）	
	303	電力制限に関する御通知	859
		一九四三年（昭和十八）九月	
		第二節 ガス業	
	304	豊橋瓦斯未払込徴収と料金値下	861
		一九三九年（昭和十四）三月二十五日	
	305	東邦ガスが奉仕班組織	861
		一九三九年（昭和十四）三月二十五日	
	306	〔中京主力会社紹介〕東邦瓦斯株式会社	861
		一九四二年（昭和十七）二月二十五日	
	307	名古屋では既に八分を節約	868
		一九四四年（昭和十九）六月二十日	
	308	愛知県に於けるガスの消費規正	868
		一九四四年（昭和十九）七月二十日	

309 名古屋市の瓦斯使用制限
一九四四年（昭和十九）十月二十日
.....
869